

急速に進展する核医学分野における 我が国の対応

令和8年2月

内閣府 科学技術・イノベーション推進事務局

急速に進展する核医学分野における我が国の対応①

1. 核医学検査・治療について

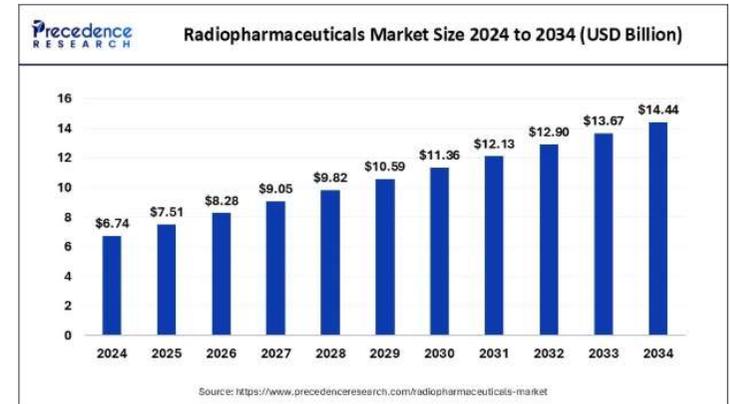
- ◆ ラジオアイソトープ (RI) から放出される放射線 (α線、β線、γ線等) を利用して、病気の診断や治療を行うもので、最近では診断と治療を合わせて行う「セラノスティクス」という手法も注目されており、核医学分野への期待は高まっている。
- ◆ 全身に転移したがん等の治療に有効という成果も出てくるなど、世界的に放射性医薬品の開発競争が激化。

2. 国内外の動向について

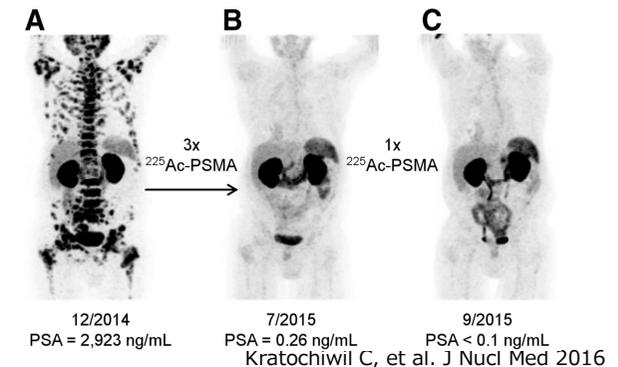
- ◆ 世界的に放射性医薬品の市場規模の急拡大が予測。
- ◆ 国内でも放射性医薬品の開発・製造・利用の取組が推進。

「最近の薬事承認例」

- ルタテラ静注 (神経内分泌腫瘍; 2021)
 - ライアットMIBG-I 131静注 (褐色細胞腫・パラングリオーマ; 2021) (神経芽腫; 2025)
 - プルヴィクト静注 (前立腺がん; 2025)
- ◆ 新たにアクチニウム225やアスタチン211といったα線放出核種による治療が注目され、世界的に多くの臨床試験が開始し、薬事承認を目指している。
 - ◆ 国内でも、放射性医薬品の原料となるRIの製造を含め、様々な取組が進められている。



プレデンス・リサーチ社 放射性医薬品市場規模2024-34



アクチニウム225の転移性前立腺がんへの治療効果例

急速に進展する核医学分野における我が国の対応②

現状認識

- ◆ 我が国において、世界に遅れることなく、放射性医薬品の開発・製造・利用が進むことは、我が国の医療体制の充実、ひいては**国民の福祉向上**だけでなく、**経済活性化**の観点からも重要。
- ◆ 世界市場がこれから拡大するところであり、日本企業にもチャンスがある一方、放射性医薬品を**海外に依存することは、経済安全保障上のリスク**となりかねない。
- ◆ したがって、我が国における放射性医薬品の開発・製造・利用を促進するとともに、そのサプライチェーンの強化を図るべく、**適切かつタイムリーに政策的対応を図る必要**。



このように、近年、世界的に放射性医薬品の開発・提供が加速し、医療用RIを巡る情勢が著しく変化していることから、

原子力委員会※では、新たに専門部会を設置し、放射性医薬品の開発・製造・利用及びサプライチェーン強化に向けた今後の取組の在り方について、検討する予定

※ 原子力委員会では、診断用RIであるMo-99の国産化等を進めるため、令和4年5月に、「医療用等ラジオアイソトープ製造・利用推進アクションプラン」を策定し、関係府省庁等の取組を推進してきたところ。今般、上述のとおり世界的に治療用の放射性医薬品の開発・提供が加速していることを踏まえ、アクションプランの改定も含め、今後の取組のあり方について検討することとした。